



## 2018年度第1回京都保健会民医連職員ジェネラリスト育成コース始まる！

京都大学社会検討医学系専攻と京都保健会が春から温めてきた「民医連職員ジェネラリスト育成コース」が10月12日開始されました。

第1回講義は、京大大学院医学研究科社会健康医学系専攻（SPH）専攻長の中山健夫先生がされました。社会健康医学系専攻とは、「医学と社会をつなぐ」ことを目的に、医療統計学、薬剤疫学、知的財産経営学分野など21分野があることが紹介されました。さらに、今年度から2023年度の向こう5年間を、京都保健会と京大SPHが共同研究していく



のは、「我が国の医療環境におけるHealth Promoting Hospitalの展開に関する研究」で、目的は、「本研究では、HPHの推進のための病院インフラ機能を開発し、担うべき医療人材の育成を行い、医療における公平性・公正性・患者中心性の指標を開発し既存の健康権との関連を研究する」ことです。

北部からも参加し、医師・看護師・リハ（OT/PT）・事務（診療情報課・医事課）等多種多彩な12名の研修生が受講しています。

「現在の保健福祉医療をめぐる諸課題を正確に捉えたうえで、全体を俯瞰し、問題の解決策とともに、解決にあたり求められる能力開発を提案できる素養の獲得を目標」に、実習はオリエンテーション含めて3回、最後は2回に分けて発表することになっています。テーマは、「病院コミュニティー協働モデル（HCC）を、2040年以降を視野に



自分の院所にある地域での医療を守るための自分の考えを提案する」です。

みなさん、頭に??のクエッションマークがついている感じかもしれませんが、次世代を担う研修生がどんな独創性、新規性、熱意・情熱をもって研究発表されるか楽しみです。アカデミックな知識ももらいながら研修生がパワーアップできるように一緒に学んでいきたいと思いを。